

# 神戸掖済会病院 公的医療機関等2025プラン

平成30年 5月 策定

**【神戸掖済会病院の基本情報】**

医療機関名：神戸掖済会病院

開設主体：一般社団法人 日本海員掖済会

所在地：神戸市垂水区学が丘1丁目21番1号

許可病床数： 325床

（病床の種別）ICU 8床、一般病床 263床、地域包括ケア病床 54床

（病床機能別）特定集中治療室管理料 8床、7：1入院基本料 263床、  
地域包括ケア病床 54床

稼働病床数： 276床

前回の報告では、271床となっていたが、平成29年6月に、5南病棟（49床）を閉鎖し、6北病棟（54床）を再開したため、現在は稼働病床数276床となっている。非稼働病床49床は、看護師確保など体制が整えれば再開する予定である。

診療科目：内科・消化器内科・呼吸器内科・腎臓内科・糖尿病内科・循環器内科・リウマチ科・外科・消化器外科・血管外科・乳腺外科・肛門外科 外科（化学療法）・形成外科・整形外科・脳神経外科・皮膚科・泌尿器科・婦人科・眼科・耳鼻いんこう科・放射線科・リハビリテーション科・麻酔科・救急科・病理診断科

職員数：2017.12.1.時点

・ 医師	51名
・ 看護職員	248名
・ 専門職	95名
・ 事務職員	84名

【1. 現状と課題】

① 構想区域の現状

神戸圏域での現状は、おもに以下の通り。

兵庫県の中では（公的病院も含めた）病院数、診療所も多い。高齢化についてはすんでいるが、これは神戸圏域に限ったことではないと思われる。

将来推計人口・高齢化率の動向を参照すると、65歳以上で、

2015年（27.6%）⇒2025年（31.2%）⇒2030年（32.7%）⇒2035年（34.6%）⇒2040年（37.6%）  
75歳以上で、

2015年（13.4%）⇒2025年（19.2%）⇒2030年（20.7%）⇒2035年（21.2%）⇒2040年（22.1%）  
という急激な伸びになっている。

当院が位置する垂水区には大病院がなく公的病院もないのが特徴である。

医療施設数

神戸 病院	総数(人口10万人比)	一般病床	うち療養病床を有する病院	精神病床のみ 有する病院
	111 (7.2)	100	43	11

  

	総数(人口10万人比)	有床	うち療養病床を有する診療所	無床
診療所	1,619 (104.3)	70	6	1,549

医療機関数(一般病院)

		神戸	
開設者別	総数		100
	公的病院	都道府県 など	7
	国	国立大学など	4
	その他		89
規模別	総数		100
		～99床	44
		100～199床	37
		200～399床	14
		400～499床	2 公的病院のみ
		500床以上	3 公的病院のみ
病床数	神戸		
	病院	15,358	
		一般病床	12,250
		療養病床	3,108
	診療所	699	
		療養病床	80
開設別病床数 (一般病院・療養病床)	一般病床 (病院+一般診療所)	総数 人口10万人比	12,869 835
	療養病床 (病院+一般診療所)	総数 人口10万人比	3,188 206.7
	神戸		
	総数	16,057	
	公的病院	都道府県 など	2,466
	国	国立大学など	1,976
	その他		11,615

## ② 構想区域の課題

法令及び国提供推計ツールを用いた将来の病床数推計

神戸圏域の病床数推計について

	2014年度	2025年度	過不足
高度急性期	2,137	2,074	63
急性期	8,380	5,910	2,470
回復期	1,307	5,032	-3,725
慢性期	3,207	2,631	576
病床数計	15,031	15,647	-616

当院は垂水区で最も規模の大きい病院として、急性期医療を中心に展開することを考えている。その基本構造としては、循環器疾患、整形外科疾患、脳神経疾患を中心として、救急医療から急性期医療を担当することを目的とする。

## ③ 自施設の現状

(平成29年度 診療実績)

29年度	入院収益	外来収益	収益合計	入院患者延数	入院単価	入院日数	外来患者延数	外来単価	外来日数
4	358,422,234	118,299,454	476,721,688	6,783	52,841	30	11,393	10,384	21
5	331,981,594	120,178,189	452,159,783	6,127	54,183	31	11,905	10,095	18
6	376,559,130	123,377,458	499,936,588	7,016	53,671	30	11,957	10,318	22
7	378,352,672	119,830,434	498,183,106	6,872	55,057	31	11,722	10,223	20
8	375,718,407	128,662,575	504,380,982	7,237	51,916	31	12,451	10,334	22
9	392,451,659	115,807,996	508,259,655	7,529	52,125	30	11,494	10,076	20
10	375,516,366	127,638,358	503,154,724	7,107	52,838	31	11,940	10,690	20
合計	2,589,002,062	853,794,464	3,442,796,526	48,671	372,632	214	82,862	72,118	143
平均	369,857,437.4	121,970,637.7	491,828,075.1	6,953.0	53,233.2		11,837.4	10,302.6	

1日あたりの入院患者数 227.4名

1日あたりの入院患者数 579.5名

- ・当院は、神戸市の指定する災害対応病院である。
- ・当院では、脳疾患、循環器疾患、整形疾患が多い。
- ・数年前より救急体制の充実を図り、少しずつ救急受入率が改善されている。

産婦人科について

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
外来患者延数	8,203名	6,830名	6,917名	4,542名
入院患者延数	5,698名	5,065名	4,874名	2,681名
分娩数	407名	332名	297名	205名

平成28年4月に医師を派遣していただいていた大学より派遣中止の連絡があり、平成29年3月に閉科を決めました。

#### 小児科について

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
外来患者延数	4,778名	4,733名	4,965名	5,091名	4,042名
入院患者延数	3,110名	3,006名	3,086名	3,340名	2,341名

小児科患者数は、ほぼ横ばいであるが、以前より収支バランスがとれておらず、また産婦人科の閉科もあり、平成30年3月に閉鎖を決めました。

#### ④ 自施設の課題

先述の通り、以前に比べて救急受け入れ態勢は改善されているが、まだまだ改善する余地はある。国の医療政策であるように、開業医（クリニック）でカバーできる疾患は、原則として病院の外来で診療しないという考え方に添えば、まだまだ「紹介患者を主とした外来」にはなっていない。

また、外来維持透析は、担当医師退職に伴い平成30年5月で終了しました。入院患者で、透析、血液ろ過等が必要な場合は対応しています。

外来患者数は減少傾向にあり、逆紹介率は、H27年度68.9%、H28年度73.8%、H29年度93.7%となっています。今後も逆紹介を積極的に行っていきます。

大学からの医師派遣がかなり厳しい状況であるが、引き続き、大学との連携を確保するとともに、病院ホームページに募集案内を掲載するなど、様々な方策により、安定的な医師確保に努めていく。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～④を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

- ・当院は、地域の診療所からの紹介を受入れる（とくに救急・入院）医療機関になるべきだと考える。また、救急疾患以外の疾患でも対応できるように、2017年6月より1病棟（54床）を一般病床から地域包括ケア病床に変更して、地域のニーズに合うように対応している。  
一部、地域包括ケア病床に変更したが、当院の役割としては急性期医療を担うべきと考えている。具体的には、脳卒中、心血管疾患、がん、糖尿病、救急を当院は担うべきと考えています。
- ・脳卒中に関しては、現在も積極的な救急受入もしており、脳外科医も増加させるべく採用に努力しています。
- ・心血管疾患も、同様に循環器科医の増員を図り積極的な救急受入を行っています。救急対応の他、新しく垂水区の開業医の在宅療養後方支援病院としての役割も加わり、より多角的に対応できるよう心がけています。  
また、MRIは2台設置し、脳卒中・心血管疾患に関する大型機器（バイプレーン）も導入の予定があり、さらに広範囲な症例に対応できるよう計画しています。
- ・がんは、従来より消化器癌を中心に外科が担当しています。今後も、がん患者に対応できるようにしていきます。
- ・糖尿病は、糖尿病専門医が継続的に外来を中心とした診療を行っています。開業医からの栄養指導の依頼にも応えています。毎月糖尿病教室を行い、地域住民に病気について知っていただくようにしています。また、年に1回、世界糖尿病デーのイベントとして、「知ろう、防ごう糖尿病～3人に1人は糖尿病、あなたは大丈夫？～」を開催して、啓蒙に努めています。
- ・救急医療は、脳外科・循環器科・整形外科を中心に日中・夜間ともに、積極的に対応をしています。

救急受入患者数の推移

平成27年度	救急車	2,316名	その他救急	3,296名
平成28年度	救急車	2,758名	その他救急	3,128名
平成29年度	救急車	3,328名	その他救急	3,312名

② 今後持つべき病床機能

先述した通り、地域でもっとも規模の大きい病院として、救急・入院診療を中心とした地域医療機関になるべきだと考えるため、現時点で病床機能の大きな変更は考えておりません。

地域医療支援病院として、地域の医療従事者に対する研修を実施しています。

また年一回、垂水区医師会の開業医の方を中心に集まっていただき、『地域医療連携の会』を行っています。

また、院外の医療関係者が参加可能な研修会を、平成29年度は15回開催し、院外より193名の参加がありました。

49床の休床は、看護師不足（とくに夜勤が行える看護師）が主因となっていますが、2018年4月には例年よりも多くの看護師の採用が出来ましたので、体制が整い次第、再開をする予定です。

また、49床は急性期として再開させたいと思っています。再開後は、脳外科、循環器内科を中心に入院診療していく予定ですが、今後、地域の医療ニーズに応じた医療を提供できるよう、垂水区医師会で新たに設置する「垂水区病院協議会」に区内6病院の一員として参加します。

休床病床の再開、もしくは病床返還の判断については、今後約1年程度、地域の医療ニーズ、入院診療体制、入院患者数、看護師確保の状況などを踏まえて結論をだす予定です。

### ③ その他見直すべき点

#### 非稼働病床について

前述した通り、現在5階南病棟（49床）が非稼働となっている。稼働していない理由は、看護師不足である。最近、少しずつ看護師も増加して、時機をみて再開したいと考えている。

ただし昨今の労働者の勤務改善策などにより、育児休業制度などが手厚くなり長期間の休職者が多い。また復職をしても時短労働やいわゆる夜勤が出来ない看護師も多く、頭の痛い問題となっている。

なお、2018年3月末で小児科を閉鎖したが、現在小児科病棟は内科・外科の混合病棟として活用しております。その他の科の患者が利用できるように検討しており、さらに非稼働病床が増えることはない見込んでいる。

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4 機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成28年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期	8	→	8
急性期	268		263
回復期			54
慢性期			
(合計)			

(再掲) 前回の報告では、271床となっていたが、平成29年6月に、5南病棟(49床)を閉鎖し、6北病棟(54床)を再開したため、現在は稼働病床数276床となっている。非稼働病床49床は、看護師確保など体制が整えば再開する予定である。  
※急性期病床のうち、54床は、地域包括ケア病床です。

<年次スケジュール>

	取組内容	到達目標	(参考) 関連施策等
2017年度			
2018年度			
2019～2020 年度			
2021～2023 年度			



② 診療科の見直しについて

検討の上、見直さない場合には、記載は不要とする。

<今後の方針>

	現在 (本プラン策定時点)		将来 (2025年度)
維持		→	
新設		→	
廃止	小児科 (2018年3月末で閉鎖)	→	
変更・統合		→	

③ その他の数値目標について

<p><u>医療提供に関する項目</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病床稼働率：90%</li> <li>・ 手術室稼働率：</li> <li>・ 紹介率：70%</li> <li>・ 逆紹介率：90%</li> </ul> <p><u>経営に関する項目*</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人件費率：54.0%</li> <li>・ 医業収益に占める人材育成にかかる費用（職員研修費等）の割合：0.2%</li> </ul> <p>その他：</p>
---

\* 地域医療介護総合確保基金を活用する可能性がある場合には、記載を必須とする。

【4. その他】

(自由記載)

--